

ポーランド政治クロノロジー(2010年12月)

| 月   | 内政  | 外交  |
|-----|---|---|
| 12月 | <p>1日 下院,「メディアの自由と社会対話の促進のための議員連盟」を発足。</p> <p>2日 下院委員会に在外ポーランド人帰還法案提出。</p> <p>2日 ロストコフスカ「ポーランドが最も重要」(PjN)代表,議会選挙を来年春に前倒し実施すべきと発言。</p> <p>3日 下院にて公的資金に関する修正案可決,政党助成金停止法案否決,選挙ジェンダー・クォーター制導入法案可決(同一党候補リストで男女比 35%以上とする),新選挙法可決(上院の小選挙区制,選挙2日制,在外投票の郵送等)</p> <p>3日 ソシエン議員及びカラシエヴィッチ議員が「法と正義」(PiS)を離党,PjN へ移籍。</p> <p>5日 郡市町村選挙決選投票</p> <p>6日 統一地方選挙市町村長選挙決選投票の公式発表(選挙管理委員会)。投票率は 35%。クラクフ,ポズナンでは現職・無所属の候補が当選,ウッジ,ルブリンでは市民プラットフォーム(PO)候補が当選。</p> <p>7日 ドルン元 PiS 議員(無所属),PiS に復党。</p> <p>8日 PjN,イデオロギー宣言として,共和・保守・キリスト教・反共産主義・「連帯」伝統の政治路線を発表。</p> <p>11日 トゥスク首相及び 4 閣僚と大統領機墜落事故遺族が会談。一部遺族がトゥスク首相の発言に抗議し,退席。</p> <p>13日 PjN,大統領機墜落事故調査特別委員会の設置を求める国会決議案を提出。</p> <p>13日 ヤルゼルスキ元大統領の自宅前で 1981 年の戒厳令導入に抗議するデモが実施。</p> <p>14日 コモロフスキ大統領,EU 加盟に関</p> | <p>1日 オルバーン・ハンガリー首相,ポーランド訪問。</p> <p>1日 シコルスキ外相,OSCE サミット出席(-2日,於:アスタナ)。</p> <p>2日 ジョビム・ブラジル国防相,ポーランド訪問(-2日)。</p> <p>5日 ポーランド+バルト三国首相会合開催(於:ワルシャワ)。</p> <p>6日 メドヴェージェフ露大統領,ポーランド訪問(-7日)。</p> <p>6日 トゥスク首相をはじめ 9 閣僚,第 10 回ポーランド・独政府間協議に出席(於:ベルリン)。</p> <p>6日 フィーレ欧州委員会委員(欧州拡大・近隣政策担当),ポーランド訪問。</p> <p>7日 ヴルフ独大統領,ポーランド訪問。</p> <p>7日 キスナー-NATO 特殊作戦司令官,ポーランド訪問(-9日)。</p> <p>7日 政府,NTM-I(イラク),KFOR(コソヴォ)任務の派遣期間延長に関する動議を大統領に提出。</p> <p>8日 シコルスキ外相,ビルト・スウェーデン外相とともに,モルドバ訪問。</p> <p>8日 コモロフスキ大統領,米国訪問(-9日)。</p> <p>8日 トゥスク首相,トルコ訪問(-9日)。</p> <p>8日 米 Time 誌,ポーランド軍アフガニスタン派遣部隊の活動を非難する米軍人の寄稿文を掲載。</p> <p>9日 シコルスキ外相,エストニア訪問。</p> <p>9日 クリフ国防相,EU 国防相会合に出席。</p> <p>9日 クリフ国防相,米国の F-16 戦闘機と C-130 輸送機を 2013 年から定期的にポーランド領内に駐留させることについて,両国が交渉中である旨発表。</p> <p>10日 シュワルツェンブルク・チェコ外相兼副首相,ポーランド訪問。</p> <p>12日 ボルセヴィチ上院議長,ハンガリー訪問(-13日)。</p> <p>13日 ポーランド・独・仏三国の外相及び国防相,アシュトン EU 外務・安全保障政策上級代表宛に,EU の共通外交安全保障政策に関する書簡を發出。</p> <p>13日 シコルスキ外相,EU 外務理事会・総務理事会に出席(-14日,於:ブリュッセル)。</p> <p>13日 シコルスキ外相,東方パートナーシップ外相会合に出席(於:ブリュッセル)。</p> <p>14日 シコルスキ外相,ハンガリー訪問(-15日)。</p> <p>15日 セレメト検事総長,ロシア側検察官による航空管制官の初</p> |

|  |   |
|--|---|
| <p>連する憲法改正案を下院に提出。</p> <p>14日 2011年予算案, 下院で審議。</p> <p>16日 欧州委員会, ポーランドの洪水被害に対する基金からの支援10億5500万ユーロを認定。</p> <p>16日 コモロフスキ大統領, 9名が死亡し, 多数の負傷者を出したヴェク炭坑鎮圧事件29周年記念式典に出席。</p> <p>16日 女性選挙参画法案が上院を通過。</p> <p>16日 鉄道の新時刻表改訂を巡る混乱でポーランド鉄道会社の幹部へのボーナス支給停止。</p> <p>20日 カチンスキ PiS 党首, 埋葬されている故大統領の遺体の真偽に疑問を表明。</p> <p>21日 トゥスク首相, 12日から導入された新鉄道時刻表を巡る混乱で, インフラ省鉄道担当次官を解任した旨発表。</p> <p>23日 トゥスク首相, 解任されたインフラ省鉄道担当次官の後任を発表。</p> <p>23日 クドリツカ高等教育相, 各大学学長に, ベラルーシの大学から追放された学生の受け入れを要請。</p> <p>27日 警察は本年の寒波による死者が127名に達したことを発表。</p> <p>29日 クラクフ裁判所, アウシュビッツ強制収容所看板を窃盗した首謀者に対し禁固2年8月の有罪判決を下す。</p> <p>30日 政府, 年金改革法案に関する協議を開始。</p> <p>30日 トゥスク首相, ユーロ導入を出来る限り早急に実施したいが, 近い将来ではない旨発言し, 具体的な導入時期の明言を避けた。</p> <p>30日 PO 発足 10周年記念式典開催(於: グダンスク)。</p> <p>31日 トゥスク首相, 2011年は痛みを伴う経済改革を断行し, 後半の EU 議長国としてのリーダーシップを発揮する旨発言。</p> | <p>度供述書の取り消しについて留保を表明した書簡をロシア側に送付。</p> <p>16日 トゥスク首相, 欧州理事会に出席(於: ブリュッセル)。ヴィシエグラード・グループ首相会合を開催。</p> <p>16日 ズリンダ・スロバキア外相, ポーランド訪問。</p> <p>16日 内務行政省報道官, ロシア国際航空委員会作成の報告書案に対するポーランド側回答を送付したと発表。</p> <p>17日 米ペトリオット部隊, 第3次ローテーション駐留終了(於: トルン)。</p> <p>17日 トゥスク首相, ロシア国家間航空員会作成の最終報告書草案は受け入れられないと発言。</p> <p>19日 クリフ国防相, キャンベル RC-E 司令官から, Time 誌掲載文に対する謝罪書簡を受領。</p> <p>20日 外務省, ベラルーシ大統領選挙後のデモに対するベラルーシ治安当局の暴力行為を非難する声明を発表。シコルスキ外相は, ヴェスターヴェレ独外相と連名で, 選挙プロセスについても遺憾を表明。</p> <p>20日 スタヴリディス欧州連合軍最高司令官, Time 誌の記事の内容を否定し, ポーランド軍兵士を評価する旨の書簡をクリフ国防相に送付。</p> <p>20日 オニシュキェビッチ元国防相, クリフ国防相の軍事顧問に就任。</p> <p>21日 シコルスキ外相, マルティノフ・ベラルーシ外相と電話会談。また, ヴェスターヴェレ独外相, ビルト瑞外相, アシュトン EU 外務・安全保障政策上級代表, 米安全保障会議のメンバーと電話協議。</p> <p>22日 外務省, ベラルーシの市民社会に対する援助を4千万ユーロに倍増する計画を発表。</p> <p>22日 クリフ国防相, グルシュカ作戦軍司令官及びパタロング特殊作戦軍司令官と共にアフガニスタン訪問。</p> <p>26日 クリフ国防相, 2011年のポーランド軍アフガニスタン派遣部隊は現状規模を維持する(約 2500 人)が, 訓練要員の兵士の割合が増大する見込みと発表。</p> <p>29日 シコルスキ外相, 2011年1月1日付でベラルーシ国民に対する査証発給手数料を無料化することを決定。</p> <p>30日 シコルスキ外相, フィラト・モルドバ首相及びレアンカ同国外相と電話会談。</p> <p>31日 外務省, ベラルーシ情勢を憂慮する声明を発表。</p> |
|--|---|